

東京五輪誤算「政権浮揚の起爆剤」

写真は朝日 10 日朝刊「東京五輪をめぐる首相の主な発言」。いかに菅首相が新型コロナを楽観して、五輪を強行したかを示している。五輪と菅政権の記事を抜粋して紹介。

「開催国としての責任を果たし、無事に終わることができた。選手の皆さん、大活躍だった。素晴らしい大会になった」9 日、長崎市での平和記念式典に出席後、記事会見に臨んだ菅首相は東京五輪をこう振り返った。

五輪で国民の高揚感を高め、衆院解散・総選挙になだれ込む一安倍前首相の「後継者」として政権を引き継いでものの、無派閥で党内基盤が脆弱な首相にとって、五輪は政権浮揚の「起爆剤」となるはずだった。開催への道筋をつけるため、期待をかけたのが新型コロナウイルスのワクチン接種だった。接種の加速化で感染状況をコントロール可能なレベルにするという「楽観シナリオ」に、官邸内は染まっていた。

開幕すると、日本選手のメダルラッシュに沸いた。高まる「お祝いムード」を意識してか、関係者によると、一時は首相が五輪の競技を競技場で観戦するプランも検討された。ただ、感染対策で国民にテレビでの観戦を求めながら、自らが観戦に出向くことで批判を招きかねないとして、首相の観戦計画は立ち消えとなったという。その一方で、感染の急拡大が続き、事態は「政権にとって最悪のシナリオ」（政権幹部）を歩んでいく。7 月 23 日の開幕時、1300 人ほどだった東京の新規感染者数は、同 28 日に初めて 3 千人を突破。その 3 日後には 4 千人を超えた。

今月 2 日には、病床を確保して必要な医療を提供するため、感染者が急増する地域では「入院制限」を実施する新方針を決定。5 日に東京の新規感染者数が 5 千人を超えるなど、医療提供態勢の逼迫が懸念される事態へと陥った。開催をめぐる首相は 6 月 7 日の参院決算委員会で「国民の命と健康を守っていく。これが開催の前提条件」と言い切っていた。一方で首相は、五輪が感染拡大に与えた影響は一貫して否定。

7～8 日に実施した朝日世論調査では内閣支持率は 28%と政権発足以降最低を記録。無党派層の内閣支持率は 15%だった。衆院の任期満了が 10 月に迫るなか、自民党内からは厳しい声があがる。中堅議員は「有権者は首相に嫌気がさしている」。ベテラン議員は「今までは、五輪が目くらましになってきたからまだ良かった」と閉幕後への危機感を強める。首相を支えるベテランはこう指摘した。「総裁選となればこれまでくすぶっている首相への不満が噴き出す。だから（総裁選を延期するために）9 月に解散するんじゃないかという話も出ている」



(2021年8月12日)